

## 第4学年 道徳学習指導案

ろ組 男子16名 女子17名 計33名  
指 導 者 永 田 佑

### 1 主 題 名 お互いの考え

B「相互理解，寛容」 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にすること。

### 2 主題について

#### (1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは，毎日の生活の中で，自分の考えを伝えたり，相手の立場に立って物事を考えたりすることの大切さを理解し，お互いの考えや意見を大切にしようとして努力してきている。しかし，自分本位な考えや思慮不足などから，お互いの考えを伝え合い，聞き合わなければならないと分かりつつも，自分の考えをしっかりと伝えられなかったり，相手の考えを聞き入れられなかったりすることもある。このようなことから，この期の子どもたちに，自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にすることが気持ちのよい生活につながることを理解させ，お互いの考えや意見を伝え合い，その背景にある思いを理解し，相手の考えを受け入れようとする態度を育てる必要がある。

そこで，本主題では，**お互いの考えや意見を主張し合う場面で生じる心情や心情の変化を，自らの体験場面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して**，自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にすることの大切さを理解し，考えの背景にある理由や思いを理解し，お互いの考えや意見を尊重して受け入れようとする心情を育てることをねらいとしている。さらには，自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にしようとする生き方は，相互の生活が明るく気持ちよく過ごせることにつながることを実感し，これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

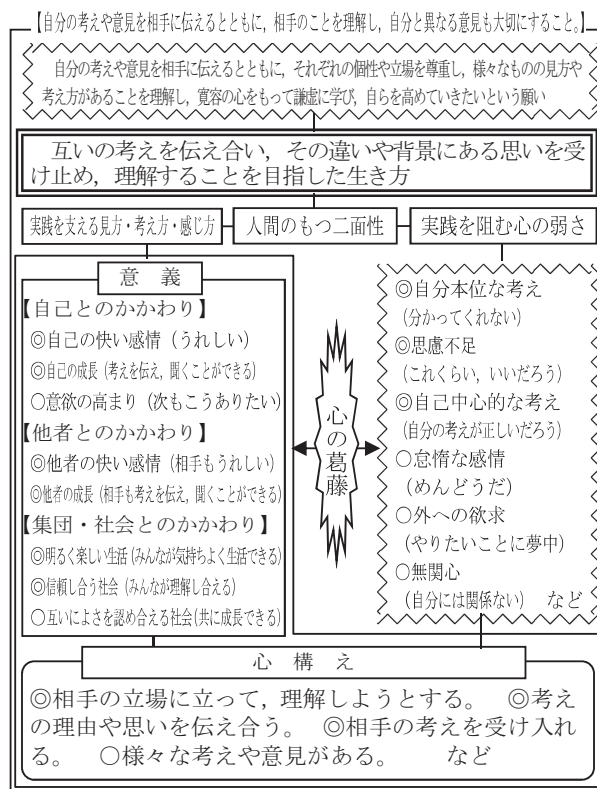
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は，自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，謙虚な心を持ち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

#### (2) 指導の基本的な立場

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にしようとするということについて，人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にしようとするとは，相手の考えの背景にある思いを理解しようしたり，相手からの理解が得られるように自分の考えを伝えたりすること，そのことによって，互いの考えを理解し合い，気持ちよい生活をつくることと捉えることができる。

ここでは，自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，それぞれの個性や立場を尊重し，様々なものの見方や考え方を理解し，寛容の心をもって謙虚に学び，自らを高めていきたいと



◎は重点的な学習内容

いう願いを基に、互いの考えを伝え合い、その違いや背景にある思いを受け止め、理解することを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、互いの考えを伝え合い、その違いや背景にある思いを受け止め、理解することで、自分がうれしくなったり自己の成長につながったりすることや、相手も快い感情になり、みんなが理解し合って楽しく気持ちよく生活できるようになることなどの意義を理解させる。それらの実現に必要な心構えとして、相手の立場に立って、理解しようとする、考えの理由や思いを伝え合う等が大切であることも理解させる。さらには、意義や心構えの理解を深めるために、互いの考えを伝え合い、その違いや背景にある思いを受け止め、理解しようと思いつつも、自分本位な考えや思慮不足などの心の弱さから、なかなか実践できないことがあることにも気付かせるようにする。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「一年生との交流会」（文溪堂）を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

一年生との交流会で「手つなぎおにがしたい」と考えていた主人公と、「紙芝居がいい」と考えていた友達は、互いの意見を主張し合って言い合いになってしまう。帰宅後、主人公は父親と話をしながらお互いのやりとりについて考え、翌日、改めて友達と話をするという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、関係付けて類推させながら、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず切実感のある自分の考えていきたい問題を追究していくために資料の一読から、自分の考えを伝えなかつたり、相手の考えの理由を聞かなかつたりした自分を振り返る場面で、**自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることにかかわることがなぜ大切か、どのようなよさがあるか（意義・心構え）を多面的・多角的に追究させる。**その際、主人公が父親との話の中で気付いた見方等と自らの生活場面における心情とを関係付けながら、お互いの多様な道徳的価値観を表出し、それぞれの課題を明確にさせる対話活動を取り入れる。さらには、自分の考えていきたい問題についてまとめていく中で、学習を通して変わったり確かになったりした自分の考えやその理由、それにつながる生活場面を意識させることで、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、互いの考えを伝え合い、その違いや背景にある思いを受け止め、理解することを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると考える。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもの自分の考えや意見を伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）等についての認識は以下のとおりである。

〔表1〕考えや意見を伝え合うことができた経験（総反応数51）とその時の感情（総反応数48）

| 経験             | 反応数(人) | その時の感情           | 反応数(人) |
|----------------|--------|------------------|--------|
| 授業中や話し合いでの発表   | 26     | どんな考えがあるのだろう     | 24     |
| 自分のやりたいことや嫌なこと | 13     | 相手に分かってほしい、分かりたい | 15     |
| 感謝や謝罪など、自分の気持ち | 7      | 考えを伝えたい、知りたい     | 9      |
| 友達からのアドバイス     | 5      |                  |        |

〔表2〕考えや意見を伝え合うことができなかった心情（総反応数58）

| 心情                     | 反応数(人) | 心情               | 反応数(人) |
|------------------------|--------|------------------|--------|
| 自分本位な考え（分かってくれない）      | 30     | 怠惰な感情（めんどうだ）     | 4      |
| 思慮不足（これくらい、いいだろう）      | 13     | 外への欲求（やりたいことに夢中） | 3      |
| 自己中心的な考え（自分の考えが正しいだろう） | 8      |                  |        |

〔表3〕実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）についての認識（総反応数70）

| 見方・考え方・感じ方  | 反応数(人) | 見方・考え方・感じ方  | 反応数(人) | 見方・考え方・感じ方 | 反応数(人) |
|-------------|--------|-------------|--------|------------|--------|
| 対 己         |        | 対 他 者       |        | 対 己        |        |
| うれしい、すっきりする | 13     | うれしい、すっきりする | 13     | 分かり合える     | 19     |
| 自分の成長につながる  | 6      | 気持ちよく過ごせる   | 5      | 気持ちよく過ごせる  | 6      |
| 共感を得られる     | 5      | 感謝する        | 2      | 自分もやろうと思う  | 1      |

[表4] 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識

総反応36

| 見方・考え方・感じ方        | 反応数(人) | 見方・考え方・感じ方     | 反応数(人) | 見方・考え方・感じ方       | 反応数(人) |
|-------------------|--------|----------------|--------|------------------|--------|
| 互いに理解しようとする気持ちをもつ | 12     | 相手のことを考える      | 7      | 一人一人の考えや意見を大切にする | 4      |
| 最後まで聞こうとする気持ちをもつ  | 8      | 自分の考えをしっかりと伝える | 5      |                  |        |

[表1]の「どんな考えがあるのだろう」「相手に分かってほしい、相手の考えを分かりたい」等の感情が多いことから、自分の考えを主張したり、相手の立場を尊重したりして、互いの考えや意見を伝え合う経験が多いことが考えられる。また、[表3]から、互いの考えや意見を伝え合うことが、「自分や相手、社会全体が気持ちよく過ごせる」という意義につながっていると感じている子どもが多いことが分かる。その反面、[表2]の「分かってくれない」「これくらい、いいだろう」といった感情から、様々な場面において互いの考えや意見を伝え合うことの難しさを感じていることが分かる。さらに、[表4]から、「考えの理由を伝える」「相手の意見を尊重し、理解する」といった考えの背景にある思いにまで目を向け、自分の考えを主張するだけでなく相手の考えを受け入れようとする気持ちや考えをもっている子どもは少ない。

これらの実態から、「相手の立場に立って、理解しようとする」「考えの理由や思いを伝え合う」などの心構えや、「自他共に気持ちよく生活できる」「信頼し合える社会につながる」などのよさを関係付けて考えさせたり、自分本位な考えで行動することが望ましい結果につながらないことを関係付けて考えさせたりして、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることとは、どのようなことかを深く追究させる必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、主人公の心情やその背景と自らの生活場面を関係付けて考え、互いの考えを比較したり関係付けたりしながら、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、多様な道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方に触れさせていく際に、自分の立場を明確にさせながら、互いの考えやその理由を交流させる必要がある。さらに、学習を通して、自分自身の見方等がどのように変わったか、その理由は何かなどを明確にさせてまとめていく必要がある。

#### (4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることの生き方のよさを主体的に追究することを通して、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために、互いの考えを伝え合うことについて、これまでの体験場面を振り返らせ、疑問や矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり、ここでの道徳的価値について見方等を十分に深めたり広げたりさせるために、主人公と友達の考えが対立する場面に焦点化し、多様な道徳的価値観を表出させる対話活動を行う。その際、子どもたちに、主人公と友達のどちらの考えを尊重したいと考えるか、またその理由を表出させることで自分の立場を明確にし、それぞれの見方等を比較しながら、話し合わせる。そして、互いの考えを主張するばかりでその背景にある理由や思いを理解しようとせず相手の考えを受け入れられないと結果的に対立してしまうことと、ここでの意義・心構えである「考えの理由や思いを伝え合う」「相手の考えを受け入れる」「互いの考えを理解して受け入れられると、気持ちよく生活できる」といった見方等を関係付けて考えさせていく。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これからの生かしていこうとする意欲を高めさせるために、自分の生き方を振り返らせる。その際、資料中の主人公の考えや話し合い中の友だちの考えなど、自分の見方等が広がったり深まったりした理由を明確にさせる。さらに、自分がこれからの生活の中で大切にしたい気持ちや考えは何か、それは、どのような生活の場面で生かせそうかを視点に考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。



### 3 本 時

#### (1) ねらい

- ア 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることにかかわる自分自身の生き方を見つめ、互いの考えを伝え合い、その違いや背景にある思いを受け止め、理解しようとする気持ちを高めることができる。
- イ 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら考え、表現することができる。
- ウ 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることについて、「互いに気持ちよく生活できることにつながる」「相手の考えを理解し、受け入れる」といった気持ちや考えを自分の生き方のかかわりを通して理解することができる。

#### (2) 本時の展開に当たって

多様な道徳的価値観を表出させるために、「どちらの考えを取り入れたら、うまくいこう。」と問い、「自分の考えを通したい」「相手の考えを受け入れる」といったそれぞれの立場を基に、その理由や考えを明確にして、互いの見方等を比較しながら展開していく。

#### (3) 実 際

| 過程   | 主な学習活動  | 時間       | 教師の具体的な働きかけ  |
|------|---|----------|--|
| 気付く  | 1 考えていきたい問題に気付く。<br>  | (分)<br>7 | ○ 切実な問題意識をもたせるために、お互いの考えを大切にすることについての捉えを挙げさせる。そして、実際の生活の中で大切にできなかったときの心情を発表させ、それらの矛盾から、問題意識をもたせる。  |
|      | 2 資料「一年生との交流会」を読み、考えていきたい問題について話し合う。<br>(1) 主人公の心情、心情の変化について感想をもち、考えていきたい場面を選択する。<br>(2) 主人公の行動の変化につながった気持ちや考えと、そのよさについて話し合う。<br><b>【尊重したい意見を選んだ理由と主人公の心情】</b><br><div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <b>【主人公】</b><br/>               自分の経験を通して、一年生のことを考えている。<br/> <b>【心の弱さ】</b><br/>               ・自分の考えが正しいだろう。<br/>               ・考えの理由や思いを聞く。             </div> <div style="width: 45%;"> <b>【友達】</b><br/>               いろいろな状況を想定して、一年生のことを考えている。<br/> <b>【心の弱さ】</b><br/>               ・友達なら分かってくれるだろう。<br/>               ・相手の立場に立って考える。             </div> </div> <b>【心構え】</b><br>・考えの理由や思いを理解する。<br>・相手の考えを受け入れる。 | 14       | ○ 資料を感動的に読み取らせ、主人公の心情への共感を高めるために、資料を一読する前に、「みんななら、一年生との交流会で何をしたいか。」と問う。<br>◎ 「どちらの意見を取り入れたら、うまくいこう。」<br>○ 主人公の気持ちを自らの体験場面での内面と関係付けて考えさせるために、主人公と友達のどちらの意見を尊重したいかを挙げ、その理由や考えを明確にさせる。  |
| 見つける | <b>【意義】</b> うれしい→自分の成長につながる→相手もうれしい→みんなが気持ちよく生活できる など<br>(2) 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えで感じたことや考えたことについて話し合う。<br>  | 14       | ○ 「自分の考えを通したい」「相手の考えを受け入れる」「どちらも分かる」といったそれぞれの立場を基に、多様な道徳的価値観を表出しながら話し合う場を設定する。その際、自分の意見を主張することだけにとらわれて対立してしまったことや、父親との話を通して主人公が気付いた考えに着目させ、自分の考えを主張する見方等と、相手の考えを尊重し、受け入れる見方等を意図的に交流させる。<br>◎ 「自分の考えより、相手の考えを優先することができるだろうか。」 |
|      | 3 学習したことを振り返り、自分の考えていきたい問題に対して、自分なりの考えをまとめる。<br>  | 8        | ○ 望ましい生き方を実践するのは難しいが、道徳的価値を大切に、よりよく生活したいという気持ちを高めるために、「考えの理由や思いを理解する」「相手の考えを受け入れる」などの考えと、互いの快さを自分の生活場面と関係付けて考えさせる。   |
| 深める  |   |          | ○ 学んだことを自分の生活とのかかわりの中で考えさせるようにするために、自分なりの考えを端的にまとめさせる。その際、今後の生活の中で大切にしたい気持ちや考え、生活の中で生かせそうな場面を考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。  |
| 見通す  | 4 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることにかかわることについて教師の説話を聞く。  | 2        | ○ 学習したことこの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために、説話を行う。  |

道徳